

学校法人北海道科学大学
北海道科学大学短期大学部
機関別評価結果

平成 30 年 3 月 9 日
一般財団法人短期大学基準協会

北海道科学大学短期大学部の概要

設置者 学校法人 北海道科学大学
理事長 苫米地 司
学 長 苫米地 司
A L O 成田 大祐
開設年月日 昭和 28 年 4 月 1 日
所在地 北海道札幌市手稲区前田 7 条 15 丁目 4-1

<平成 29 年 5 月 1 日現在>

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
自動車工学科		150
	合計	150

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

北海道科学大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 30 年 3 月 9 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 28 年 7 月 26 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、我が国初の自動車工学専門の北海道自動車短期大学として開学し、平成 26 年 4 月に現在の校名に変更、平成 28 年度に建学の精神を併設大学と統一した。

建学の精神は、「科学的市民」の育成を教育理念の中心に据え、教育理念の「進取不屈」とともに学内外に表明されている。

教育目的・教育目標は建学の精神に基づき明確に規定されており、学内外に表明している。また、定期的に見直しを行っている。学習成果については、卒業時の学生のあるべき姿として、学位授与の方針が建学の精神、教育目的、教育目標に基づいて定義されている。学習成果の査定は明確で、二級自動車整備士国家試験の合格率をあげるなど具体性があり、測定可能である。卒業後の評価も実施されている。シラバスには、科目の達成目標が授業計画、履修に当たっての留意点等とあわせて示され、学習成果を上げるよう配慮されている。教育の質保証のため、法令等の順守の徹底を図り、学習成果の査定手法を備え、授業改善の PDCA サイクルを有している。

自己点検・評価の規程及び組織が整備され、日常的に実施されている。

学位授与の方針を起点に教育課程編成・実施の方針を作成し、教育課程を編成し、シラバスを作成し、教育を行っている。教育課程は卒業とともに二級自動車整備士の受験資格が得られるよう編成されている。入学者受け入れの方針は学習成果に対応し制定されている。

学生支援の面では、学生支援委員会を組織し、併設大学と共通の学生支援センターと連携して支援を組織的に行っている。単位認定状況を表す資料が学務システムで閲覧でき、教職員は出欠状況も LMS (Learning Management System) で把握できる。無線 LAN が整備され利用できる。学生による授業改善アンケート、教員相互での授業参観・評価、基礎学力が不足する学生への補習出席義務付けなど授業改善、学習成果の向上が図られ、履修単位数の上限も設けている。進路支援は組織的に行われ、就職希望学生の就職率は非常に高い。

学習成果に対応し定められた入学者受け入れの方針に基づき、入学者の選抜が行われて

いる。

人的資源として、教員組織は短期大学設置基準を満たし、教育課程編成・実施の方針に基づいて編成されている。教員は授業、研究、学生指導、社会貢献に向け努力している。事務組織も適切に整備され、責任体制は明確で、業務を円滑に行っている。就業規則等教職員組織に係る規程は整備され、適正に運用されている。FD 研修会は規程に基づき実施されており、SD 活動は規程により学内研修を定期的に行い、自己研鑽の場を設けている。

物的資源として、校地、校舎面積は短期大学設置基準を満たしている。施設設備の規程は整備され、適切に管理されている。防火・防災対策は整備され、省エネルギー対策、環境保全策も配慮されている。

財的資源は、短期大学部門の事業活動収支は過去3年間、学校法人全体では過去2年間、支出超過となっているが、学校法人全体では余裕資金は確保されている。また、学校法人として中・長期財務計画を策定し、事業運営を計画的に行っている。

学校法人及び学校運営の諸規程が整備され、理事は適正に構成され、理事会が運営されている。理事長は、理事会で適正に選任され、学校法人を代表して、その運営全般にリーダーシップを発揮している。学長は、教育に深い造詣を有し、学長選考規程に基づき選任され、教学運営にリーダーシップを発揮している。監事は、学校法人の業務及び財産の状況を監査し、理事会及び評議員会に出席して必要な意見を述べ、監査報告書を作成し、理事会及び評議員会に提出している。評議員会は、寄附行為に基づき、理事の定数の2倍を超える数の評議員をもって組織され、運営されている。

事業計画と予算は適切に決定され、執行されている。計算書類等の作成、公認会計士監査への対応、資産及び資金の管理・運用は適切に行われている。

法令に基づき、教育・財務情報は公表・公開されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ B 教育の効果]

- 学習成果を量的・質的データとして測定する仕組みを持ち、学内外に表明し、定期的に点検している。特に国家資格取得に向け測定指標を確認し定期的に点検し学習成果の向上に努めている。各科目共通で、「知識力」、「応用力」、「展開力」の三つの軸で評価

している。学習成果を査定する指標として GPA 制度を導入し活用を図っている。

[テーマ C 自己点検・評価]

- 日常的な自己点検・評価活動に全教職員が関与し、成果を活用している。全教員はその日の学生の反応を振り返り次回の講義、実験実習を行うように心がけ、授業改善アンケートを行い、各教員は必ずコメントをしている。前回（前年度）の結果も考慮して次回（次年度）の講義に向けての指標とし、授業改善に生かしている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 学科の学位授与の方針に従って卒業を認定された者のほとんどが、二級自動車整備士の国家資格を取得し、自動車業界で活躍している。そのことから、学位授与の方針には社会的な通用性が認められる。

[テーマ B 学生支援]

- 学務システムで単位認定状況の閲覧が可能であり、出欠状況も LMS（Learning Management System）で全教員が把握し学生指導に役立てている。
- 交通安全のための講習会の定期開催、運転免許保持者へのセーフティラリー参加促進、企業説明会や卒業生就職セミナー、業界説明会等のガイダンスや担任の指導により就職希望学生の就職率が非常に高い。

（２）向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 自動車工学を学ぶ学生として、二級自動車整備士の資格取得に直接関わらない汎用的技能や課題解決力などを獲得する科目と二級自動車整備士養成のための科目との有機的な連携を図ることが望ましい。

[テーマ B 学生支援]

- レポート作成の際に必要な国語能力が劣る学生に対する補習と関連科目の履修促進や、工学系学習に必要な計算能力の低下傾向に対応した入学前教育の更なる充実が望まれる。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ D 財的資源]

- 余裕資金はあるものの、事業活動収支が、学校法人は過去2年間、短期大学部門は過去3年間支出超過となっている。中・長期財務計画に沿って収支バランスの改善に取り組むことが望まれる。
- 短期大学の収容定員充足率が低いので、今後の定員充足の在り方について検討し、改善に取り組むことが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

当該短期大学は、我が国初の自動車工学専門の北海道自動車短期大学として開学し、平成 28 年度に従来の建学の精神「『尚志』（志を高く、志を尊ぶ）」から併設大学の「『科学的市民』の育成」という「専門職としての役割を主体的に果たせる人材を育成することにより地域社会の活性化に寄与すること」と建学の精神の見直しを図った。建学の精神は、教育理念「進取不屈」とともに、学生便覧やシラバス、大学案内、ウェブサイトにおいて、学内外に表明し、オリエンテーション等で説明している。

教育目的・教育目標は建学の精神に基づき明確に規定されており、学内外に表明している。また、定期的に見直しを行っている。学習成果は、卒業時の学生のあるべき姿として学位授与の方針が、建学の精神、教育目的、教育目標に基づいて明確に定義され、学生便覧やウェブサイトにも明記されている。シラバスには、学習成果の獲得に向け、個々の科目の「達成目標」が、授業計画、予習・復習の指示、履修に当たっての留意点等と併せて記述されている。教育課程レベルでの学習成果の達成状況について、平成 28 年度より導入した GPA 制度を基に、その指標推移を追跡し、定量的に測定する仕組みを整えている。当該短期大学は、卒業と同時に二級自動車整備士の受験資格が得られる「国土交通大臣が定める自動車に関する学科を有する大学」で、ほとんどの学生が二級自動車整備士の学科試験を受験し合格していることから、学習成果を上げているといえる。学生による授業改善アンケートは、前・後期に全ての科目で行っており、その結果は集計後、学生からの意見も含めて科目担当教員に配布している。その結果に対して各教員はコメントを義務付けられ、前年度の結果も考慮して次年度の講義に向けての指標としており、授業改善の PDCA の基となっている。

日常的な自己点検・評価は、全教員が講義、実験実習共に毎回、その日の学生の反応を振り返り、次回の講義、実験実習を行うよう努力している。

学則の自己点検・評価に関する規定に基づき「北海道科学大学短期大学部自己点検・評価委員会規程」を制定している。平成 22 年度の自己点検・評価報告書は公表したが、平成 23・24 年は運営計画書、平成 25・26 年は経営改善計画書を作成してきた。今後はより詳細な観点からの改善を行うため、自己点検・評価活動の結果は、自己点検・評価報告書として取りまとめ公表することが望まれる。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針はウェブサイト、学生便覧、シラバスに掲載し、学内外に表明している。学位授与の方針を起点に教育課程編成・実施の方針を作成し、教育課程を編成、シラバスを作成し、教育に当たっている。教育課程は卒業とともに二級自動車整備士の受験資格が得られるよう編成され、自動車業界の様々な業種に対応し、四つのコース（自動車整備、技術開発、損害保険、マネジメント）を設定し、常に見直している。入学者受け入れの方針は、学生が獲得する学習成果に対応している。

卒業要件 65 単位中 52 単位が二級自動車整備士に関する認定科目であるが、四つのコースに関連する科目や教養科目、社会人基礎力関連科目も開講している。自動車工学を学ぶ学生として、二級自動車整備士の資格取得に直接関わらない汎用的技能や課題解決力などを獲得する科目と二級自動車整備士養成のための科目との有機的な連携を図ることが望ましい。

学習成果は二級自動車整備士国家試験の合格率に表れ、次年度の教育へフィードバックしている。卒業生や就職先企業へのアンケート調査は、今後の計画的実施を検討している。

学習支援の面では、学期ごとに全ての科目について単位認定の状況を表す資料を作成し、学務システムで全教職員が閲覧できるようになっている。全科目で学生による授業改善アンケートを実施している。教員相互での授業参観・評価を実施し、授業改善に活用している。出欠状況も LMS にて共有され、日常的に全教職員が把握している。学生便覧及びシラバスは、ウェブサイト上でも閲覧できる。基礎学力不足の学生は入学時の学力調査テスト（国語、英語、数学）で把握し、学生指導の参考としており、数学の学力不足の学生には補習への出席を義務付けている。また、補習を行ってから再試験を実施するなど学習成果を上げるよう努力している。なお、レポート作成の際に必要な国語能力が劣る学生に対する補習と関連科目の履修促進や、工学系学習に必要な計算能力の低下傾向に対応した入学前教育の更なる充実が望まれる。学習成果担保のため学期ごとの履修単位数の上限を設けている。

学生の生活支援のため、学生支援委員会を組織している。「ものづくりプロジェクト」は、学生が能動的に自動車工学の学びを深めるために、教職員のサポートを受けながら自動車の製作を行い、その活動経費の一部を助成するものであり、札幌モーターショーへ電気自動車を製作・出展し、グランプリを受賞した。運転免許保持者にはセーフティラリーへ参加を促すなど、安全面への支援も行っている。奨学金等、経済的支援のための制度が整備され、医務室、学生相談室等を設け、健康管理や悩みの相談の体制を整えている。

就職関連資料や企業別ファイルなどが学生の多目的な自由な空間としてのフリールームに常備され、就職希望学生の就職率は非常に高い。自動車整備士養成施設委員会による講習や試験に備えた学科演習を行い、二級自動車整備士資格合格率は非常に高い結果を出している。

学生募集要項には入学者受け入れの方針を明記している。入学手続者に対して自習課題を課し添削指導を行い、入学後への動機付けや学習成果の向上を図っている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員組織は短期大学設置基準を満たしており、教育課程編成・実施の方針に基づいて編成されている。それぞれの教員は授業、研究、学生指導、地域社会への貢献を含め、自らの専門性を高めることはもちろん、常に授業内容の向上に努力を積み重ねている。研究活動に関する規程が整備され、研究成果を発表する機会として研究紀要を発刊し、研究業績はウェブサイトで公開している。また、「北海道科学大学奨励研究」の研究助成により共同研究も行われている。FD活動に関しては、「ファカルティ・ディベロップメント規程」に基づいてFD研修会を実施している。

事務組織に関する諸規程は適切に整備され、教員組織と連携を深めている。事務組織の責任体制が明確になっており、各事務職員は専門的知識を有し、業務執行を円滑に行っている。SD活動については、「スタッフ・デベロップメント規程」により、事務局運営の円滑化を推進するとともに、学内研修として、職員対象の「職員月例研修会」や学外講師を招聘しての教養研修等、各種講演・講習会等を定期的を開催することにより自己研鑽の場を設けている。防災対策は、全学的に消防避難訓練及び防災訓練を実施し、積極的に取り組んでいる。教職員の就業に関しては、就業規則等は整備され、適正に運用されている。

校地、校舎面積は短期大学設置基準を満たしている。また、運動場のほか、教育研究に必要な施設を整備している。設備はそれぞれの専門性に応じて整備され、短期大学教育として十分な施設設備を整えている。施設設備の維持管理は、規程に基づき適切に管理されている。また、環境マネジメント推進委員会を設置し、エネルギー使用の合理化の推進に努めている。各教員研究室、教室、実験実習場には有線・無線LANが整備され、授業を効果的に行うため、パソコン、インターネットを活用し、新しい情報技術を取り入れ、授業や学校運営に反映しており、教職員に対し技術支援を行っている。

財務状況について、学校法人全体は、中長期計画として「教学体制の再構築並びにキャンパス再整備計画」が進行中であることから、事業活動収支が過去2年間支出超過となっているが、余裕資金は確保されている。短期大学部門は過去3年間支出超過である。平成29年度の収容定員の充足率は低く、今後、短期大学の定員充足と財務体質の長期的な維持に向けた見通し、更なる計画の改善が求められる。学校法人全体としては、達成すべき目標を定め財務計画を策定し、事業運営は事業計画を中心に適切に行われている。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、寄附行為に基づき理事会の議長を務めるほか、常任理事会をまとめ、理事長の諮問機関としての運営協議会を招集し、学校法人を代表してその運営全般にリーダーシップを適切に発揮している。寄附行為をはじめとして学校法人及び学校運営の諸規程が整備されている。寄附行為に基づき、理事は適切に選任され、理事会は、私立学校法及び寄附行為に基づいて学校法人の意思決定機関として運営されている。

学長は、教育に深い造詣を有している。あわせて短期大学の経営管理面でもその責任を有し、教育効果の発揚と管理運営の両面にわたって適任と認められる者として学長選考規程に基づき選任され、教学運営の職務遂行に努めている。また、教授会を学則等に基づいて開催し、短期大学の教育研究上の審議機関として適切に運営し、リーダーシップを発揮

している。

監事は、学校法人の業務及び財産の状況について、監事監査規程等に基づき、監査を実施している。理事会及び評議員会をはじめ、定例の運営協議会、常任理事会等に出席して、法人の業務及び財産の状況について必要な意見を述べるほか、監査報告書を作成し、理事会及び評議員会に提出している。

評議員会は、寄附行為に基づき、理事の定数の2倍を超える数の評議員をもって組織され、理事長を含め役員の諮問機関として適切に運営されている。

中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算は適切な時期に決定し、事業計画と年度予算は適正に執行されている。経理の状況は経理責任者を経て理事長に報告され、計算書類等は学校法人の経営状況、財政状態を適正に表示している。公認会計士の監査意見への対応は適切である。資産及び資金は、適切な会計処理に基づいて記録し、安全かつ適正に管理している。

学校教育法施行規則、私立学校法に基づき、教育情報を公表し財務情報を公開しており、ガバナンスは確立されている。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

職業教育の取り組みについて

総評

短期大学は学校教育法第108条において、「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実生活に必要な能力を育成すること」を主な目的とすると規定されている。この規定に従い、選択的評価基準に沿って現状を把握し明確化した上で、課題を整理し改善計画を立て常に向上を図っている。

職業教育の役割・機能では、教育目的を学則に定め、教育目標も明確にしている。自動車産業・地域社会に貢献できる職業人の育成こそが使命と考え、当該短期大学の教育そのものが職業教育であるとしている。課題も明確化し、改善計画は、職業教育の機能、分担等を明確に規定化する必要があるのかを議論している。

職業教育と後期中等教育との接続では、高等学校に対し出前授業を提供し、職業教育を先取りしている。また、高校生等の見学会も積極的に行っている。高大連携協定を締結している高等学校に対しては、進路決定の積極的な取り組みを支援し、教育の機会を拡大することに協力している。さらに、当該高等学校の進路教育の一環である社会見学に当該短期大学の教員も同行し、卒業生が勤める会社や自動車工場の見学等も行っている。課題は、高等学校へ訴求する内容が自動車工学・自動車整備に偏りがちになっていることであり、改善計画は、必ずしもクルマに興味のなかった層に対し、クルマの魅力をアピールできる方法はないか模索している。

職業教育の内容と実施体制では、就職支援委員会が中心となり、企画・運営を行い、改定を行いながら次年度につなげている。課題は、就業支援教育、技術者教育、教養教育のどこに重点を置くかは議論が必要であると捉えている。

学び直し（リカレント）の場としては、当該短期大学の卒業生が経営する損害保険調査会社が、十数名の規模で毎年当該短期大学にて研修を行っている。課題は、損害保険調査会社の実習以外は、社会人の学び直しの場がない現状がある。改善計画は、社会人を長期履修制度により、現行の2年を超えて教育を行った時、自動車整備士資格取得に必要な時間数に計上できるのか、官庁とすり合わせを行っている。

職業教育を担う教員の資質向上では、教員全員が二級自動車整備士資格を取得し、その上で各自が自己研鑽に励んでいる。また、多くの研修会に参加し、教員個人の資質の向上、経験の共有化を進めている。課題は、教員全員研修の参加者が一部の教員に偏る傾向があ

った点だが、講義・実習の内容の標準化をすすめ、出張の際はほかの教員が代講を行いやすくするなど、様々な工夫をし、研修等に参加できるようにすることで改善を図った。

職業教育の効果の測定・評価では、二級自動車整備士試験の合格率が他の大学等とも比較できる。課題は、就職先企業での卒業生をどう評価しているのか、意見を集め調査を行うこととし開始している。改善計画は、職業教育にフィードバックしていくことである。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

○ 職業教育の内容と実施体制が確立している。職業教育の機能を三つに分け①就業支援教育、②技術者教育、③教養教育として、「①就業支援教育」は、1年前期開講科目「ビジネススキルⅠ」、1年後期開講科目「ビジネススキルⅡ」が担っている。

入学直後では1年後に迫った就職活動への意識付けを行い「ビジネスマナー」、「就職活動の心構え」をはじめ「社会人基礎力」、「自己分析」、「自己PR」、「志望動機」などを個別に指導している。「②技術者教育」は、二級自動車整備士養成に必須の教育時間、教育内容を網羅した「二級自動車整備士認定科目」を全て必修化している。「③教養教育」は、短期大学ならではのものと考え、「+Professional」をスローガンに教育を行っている。専門に関する能力、すなわち Professional だけではなく、専門能力も、ヒューマニティ、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、マネジメント能力といった基盤能力を前提にしている。

地域貢献の取り組みについて

総評

公開講座については、毎年、「子供向けの自動車への関心を喚起するイベント」や「大人向けの実践的な自動車整備についてのイベント」を実施して、自動車の必要度が高い北海道において短期大学の特色を生かして地域に貢献している。また、昨今若者の文字離れや地方の書店衰退が取りざたされる中、地域に向けた図書館利用の推進にも一役買っている。

地域社会との交流活動等では、北海道内の自動車関連最大のイベント「札幌モーターショー」には第一回の開催より後援し、北海道庁や札幌市、札幌地方自動車整備振興会やカー・ディーラーなど官民学連携を行っている。

また、道庁や小樽市等自治体や工業系高等専門学校と協定を結び、地域のまちづくりや福祉、人材育成、自動車関連人材のキャリア教育等地域振興にも貢献している。

ボランティア活動では、自動車というモノづくりの観点から、学生たちのアイデアをバックアップする、「夢プロジェクト」(夢プロ)と呼ばれるユニークな制度を創設し、学生の学外での活動を推進し、学生のみならず子どもたちにも夢を与えている点は、将来自動車産業を担う人材育成やすそ野を広げる意味でも今後の成果を期待したい。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

○ 北海道内の自動車関連最大のイベント「札幌モーターショー」には第一回の開催より

後援を継続し、貢献していることは地域との連携を図る上で重要である。

- 「夢プロジェクト」制度による学生ボランティア活動が公認クラブ（ものづくりプロジェクト「夢」）に引き継がれ、30名程度の学生が所属、活動していることは特色ある取り組みである。